



日本人が 英語を正しく使えない理由



デービッド・K・アサノ

信州大学工学部情報工学科

E-mail david@cs.shinshu-u.ac.jp

1. はじめに

まず、誤解がないように断っておきたい。この記事を読んで「日本人を馬鹿にしている」と思う方がいらっしゃるかもしれないので、私がこの記事を書いた理由を最初に述べたい。日本人は英語ができないとよく言われているのは事実で、私はその日本人のために英語力向上の助けになればと思い、私の経験を元にこの記事を書いたわけである。

2. 日本中は変な英語だらけ

私は日本に来て9年半ほど(在日期間を通算すれば12年ほど)になる。その間に正しい英語を余り見たことがない。自動販売機、Tシャツ、雑誌の広告など、間違った英語だらけである。最初は、とんでもないことが書かれているTシャツを着ている人を見て「意味がわからないのかな」と思ったり、変な英語の看板を見て笑ったりして、結構おもしろかった。

しかし最近では、日本人にとってこんなことが続くとはよくないのではないかと思うようになった。間違った英語表現があると、それが正しいと思いきむ人が出てくる。正しい英語が使えないと国際社会で苦勞することにもなる。

電子情報通信学会も含めて学会の論文誌にもこのような問題がみられる。例えば、最近届いた「IEICE Transactions on Communications」と「IEICE Communications Society – Global News Letter」をめくってみたが、やはり英語の間違が多い。例えば、Global News Letterの裏表紙の広告のなかに、「... we are the one of the largest professional ... and one third of the membership is belonging to ...」と書いてあった。最初の「the」はいらぬし、「is belonging」ではなく「belongs」が正しい。国際的な組織を目指すなら、言葉を正しく使うのは必須ではないだろうか。

日英翻訳ソフトウェアにもこのような問題がみられる。私が持っているPDAに入っている翻訳ソフトウェアの力を試してみた。「通信関係技術について発表します」と入力したら、「It is announced about the technology related to the communication」が出力された。何これ？私が翻訳するなら、「My presentation is about communications related technology」とする。このようなソフトウェアに頼っている人は結構いると思う。英語のレポートを書くときに、翻訳ソフトウェアを使う学生も結構いる。しかし、このよ

うな英語を使うと話を通じないし、下手をすると誤解される。

和製英語も問題である。「パソコン」「タレント」「サインペン」などのような英語のようで英語でない表現が多い。私は今でも「グラス」と「ガラス」の使い分けを間違うときがある。英語に直すとどちらも「glass」になるが、日本人が発音すると、どちらも「grass」に聞こえる。別の例をあげると「ソフトウェア」という言葉がある。「ソフトウェア」はまだでしたが、いつのまにか「ソフト」になって、「soft」(柔らかい)という意味に変化してしまった。日本語として使うなら許せるが、英語だと思われたら困る。一生懸命に「I have good soft」と言われても何を言っているのかわからない。

3. なぜこうなったのか

英語がなぜこんなに間違っ使われるのか最近よく考えるようになった。間違った英語の文書について考えた結果、下記の原因があると気づいた。

- 英語は言語ではなく、ファッションだと思っていること
- 間違っいても、正しい英語

- だと思ひこんでいること
- 間違っているかもしれないと思っ
ていても、チェックをしないこと
- 自信がないが、チェックをして
くれる人がいないこと

英語をデザインとして使うことは
少なくない。信州大学もそうである。
工学部の紹介パンフレットに英語が
ところどころ使われているが、意味
がなく、ただの飾りにすぎない。英
語を入れると格好いいということだ
ろうが変な英語だとかえって逆効果
である。私は専門英語の講義も担当
していて、学生が着ている服に変な
英語が書いてあると、英語の悪い例
として皆に紹介する。着ている本人
はやはり意味がわからないから、私
が意味を教えてあげるとたいていそ
の服はもう着ないと言う。

正しい英語だと思ひ込む人が多い。
例えば、私の名前は英語で「David」
と書く。「v」はあきらめているからい
いが、幾ら「デービッド」と書いて
も「デービット」にする人が減らな
い。呼ばれるときも「ト」の発音に
なっている。直すのに苦労している。
これに類似した例も幾つか発見した。
「big」を「ビック」、「badminton」を
「バトミントン」と書くなど、間違っ
た表現になっていることが多い。昔
の人間が悪かったのだろうか。その
失敗を引きずっている現代の人は大
変である。

一番いけないのは、英語のチェッ
クをしないことである。スペルチェッ
クソフトウェア(ソフトではない)が
あるにもかかわらずスペルミスが結
構ある。去年工学部の国際記念館を
見に行ったときに、「No Smorking」
という標識があった。結構笑えたと
同時に、これが「国際向けの施設か」
と思った。別の例を挙げると、現在
購読している和文の専門雑誌がある。
この中に英単語を使用することがあ
るが、スペルミスをよく発見する。

和文雑誌なので、スペルチェックは
無理なのだろうか。

雑誌だけではない。以前超大企業
の中央研究所を見学したときに、案
内してくれた人が自慢そうに展示
室を見せてくれた。英語の説明も付
いていたが、読んだものだけで英語
のミスを2、3箇所発見した。その
ミスを指摘したら、恥ずかしそうに
「これはいけないね」と言ったが、「そ
のミスを直したのかな」と時々思う。

自分の英語に自信がなく、また、
チェックしてくれる人がいないこと
も多いと思う。しかし、外国人が読
むのが前提であれば、その変な英語
を読まされる人の気持ちになって考
えてほしい。研究論文の内容がわか
らなければ査読者として「reject」と
評価するしかない。私も日本人が書
いた英語の論文を幾つか査読したが、
英語が下手で本当に嫌になる。

外国人向けのサービス業も気を付
けたほうがいい。最近はどうでもな
いが、昔日本の製品に付いてくる英
語の説明書はおかしくて有名だった。
サービス大国の日本が製品に訳のわ
からない取扱説明書を付けても、良
いサービスとはいえない。

日本人が英会話が苦手な原因とし
て上記の理由も考えられるが、正し
い発音を知らないのが一番の原因だ
と思う。何でもカタカナで表現しよ
うとするから正しい英語の発音がで
きないし、主に日本人に教わったの
では正しい発音は覚えられない。最
近、私の子供が通っている小学校に
外国人教師が時々来て、子供たちと
英語で遊ぶ。とてもいいことだが、
日本人の先生が主体に教えているの
はよくない。私は日本人から日本語
を教わったし、日本人以外の人に教
えてもらいたいと思わない。

日本人と英語で話すとはやはり一番
気になることは発音である。私が来
日してある研究室に入ったとき、研
究室の教官に「Welcome to my lab」

と言われた。ここで「lab」を「ラボ」
と発音したため、笑ってしまった。
それ以外に「salad」が「サラダ」、
「card」が「カード」になるように
言葉の最後が結構間違っている。

日本語にない発音が結構あるのも
原因の一つである。例えば、「r」と
「l」の違いはなかなか難しい。それ
以外にもいろいろあるが、余り重要
視されないのは「fun」と「fan」や
「fur」と「far」のような発音である。
読者の中で区別が分かる人は何人い
らっしゃるだろうか。力を試したい
方は下記のページを見て頂きたい。

[http://www-comm.cs.shinshu-u.
ac.jp/public/english/](http://www-comm.cs.shinshu-u.ac.jp/public/english/)

英語で話しているとき、言葉が分
からないとついカタカナ用語を言っ
てしまう人が結構いる。しかし、カ
タカナ用語はすべて英語ではないし、
発音が違うから気を付けなければな
らない。例えば「ズボン」「パン」は
英語ではない。

4. 対策は何があるだろうか

英語を正しく使えるようになるた
めには、どうしたらよいだろうか。
私は次のような対策を提案する。

(1) 日本人と英語で話さないこと

やはりネイティブの人と話さなけ
れば上達しない。日本人と英語で話
すと何の役にも立たないし、かえっ
て英語力が落ちる。私がよく聞くラ
ジオ局の番組で、英会話のコーナー
がある。ネイティブの人(本当にネー
ティブかなと疑っているが)の発音
を流したあと、司会者がその言葉を
繰り返す。「司会者は発音が下手だか
ら、逆効果だよ」とそれを聞くたび
に思う。

(2) 遠慮せずに、英語を直してもら うこと

日本人は結構遠慮する民族だと思

う。それはそれでいいが、英語の上達の妨げになっている。正しい英語かどうか自分で判断できない場合は、だれかに聞くしかないだろう。聞ける人がいない場合は問題だが、論文の提出のような大事な場合は、お金を出してでも修正してもらおうべきだと思う。

私の周りには英語をよく使う人がたくさんいる。学生はもちろん勉強しているが、教官も英語で論文を書いたり、海外出張したりしている。しかし、私と英語で話そうという人はほとんどいない。これは不思議である。やはり遠慮しているのだろうか。日常会話ならいつでも付き合うのにもったいないといつも思う。

(3) 恥をかいても自信を持つこと

英語を使って恥ずかしい思いをしたくないから使おうとしない人が結構いる。私は子供のときにそう思っていた。「上手に話せないから」と思って、外国語で話すときはすごく緊張した。後でそれは良くないと思うようになり、恥を一杯かきながら日本語を勉強した。

私が恥をかいた経験を二つ紹介しよう。最初の話は日本を旅行していたときである。四国のある町の喫茶店に入って昼食を食べていた。ちょうど口が一杯のときに若い女性が私のテーブルにきて話かけてくれた。周りがうるさかったし、私の日本語は当時余りうまくなかったため、その女性の言ったことがわからなかった。もう一度言ってもらおうと思って、「聞こえません」と言った。そうしたら、その女性は逃げるように去って行ってしまった。後でよく考えたら、その女性は私が耳の聞こえない人間だと思ったのだろう。口が一杯だったし、変な顔をしたのかもしれない。

もう一つの経験は、電話に出たときの話である。やはり電話で話す

きは緊張する。相手は私が外国人だと分からないから普通に話してくる。自信を持って電話にでたが、私あての電話ではなく、そのとき不在だった人への電話だったので伝言を聞こうと思って、「どちら様ですか」と言おうとした。しかしそのときなぜか頭の中からその言葉が出てこなかった。その代わりに「何様ですか」が口から出てしまったので、電話の向こうで言葉を失っている相手の姿が目に見えようと思った。

私はそれくらいのことでめげずに頑張ってきたので、読者の皆さんも気にしないでどんどん英語を使っていたきたい。

(4) 教科書ではなく、テレビ番組、雑誌など「生きている」英語を使うこと

英語を使うには、英語の思考が必要である。日本的に考えても英語は正しく使えない。私は「日本語を話すときに頭の中は日本語か」とよく聞かれる。当然そうである。英語で考えながら日本語は話せないと同じように、日本語で考えながら英語は話せない。口で話すのと頭の中で話すのと何の変りもない。英語の表現さえ分かればいいのである。

日本語と英語は根本的に違うので、お互いに苦労するが、努力次第で何とかなる。特に難しいのは、「a」と「the」である。私はこれらを正しく使える日本人にまだ会ったことがない。やはり正しく使えるようになるために、英語的思考が欠かせないと思う。「a」と「the」は重要でないと思うかもしれないが、間違ってしまうと意味が異なってくる。

日本人の英語を見ると、日本語から直訳した表現が多い。しかし、英語と日本語の表現の仕方は結構違うので、正しい英語にならない場合が多いし、正しくてもおかしい英語になってしまう。正しい英語の表現を

覚えるためには、テレビ番組や雑誌を利用するのが一番だと思う。無理に翻訳するのではなく、「英語でこう言うんだ」と思えばいい。私は日本語でよく使う表現の中に英語に直せないものがある。「それは英語で何と言うのか？」と聞かれてもいい表現がない場合がある。そのときは、無理に訳さないで英語でそういうことは言わないと思った方がいい。

(5) 性格を変える

いろいろな日本人と接してきたが、一般的に男性より女性のほうが上手に英語が話せると思う。なぜかというと、女性のほうが英語的な思考を持ち合わせているからだ。私は思う。男性の多くは「おれは日本人だ」というプライドを持っているので英語的な思考は持ちにくい。もちろんそのようなプライドを持つことは構わないが、英語を上手に使うために、ある程度それを押さえて英語的な思考を取り入れなければならない。

私は次のような経験からこの結論が正しいと思った。私は展示会に行くとき、日本語ができないふりをして、出展者に英語で話しかける。たいていの場合、女性が対応してくれる。その次は若い男性で、私から逃げるのは中高年の男性である。それぞれの英語を聞くと、やはり女性の英語が一番いい。若い男性は一所懸命に話そうとするが、女性ほど話せない。英語的な思考というと、丁寧な言い方の違いが一番顕著だろう。日本語には、「敬語」があるが、英語にはそれに相当するものがない。私は敬語が使えても目上、目下を余り気にして話さない。(外国人だから許されるのだろうか?) もちろん英語でも丁寧な言い方と失礼な言い方があるが、日本語のように単語がまったく別というわけではない。逆に、日本語で失礼だと思う表現でも英語で言うと問題ないものがある。例えば、道案内をするときに、日本

語で「右へ曲がっていただいて…」のような言い方をする。英語なら、「Turn right …」のような命令形を使う。日本人が道案内を英語ですると、必ず「Please」を入れるが英語では必要ない。失礼でも何でもなし。それが英語的な思考である。

本当に英語を上手に話したいなら、ある程度性格を変える必要があるかもしれない。逆に言えば、英語が上手に話せる人には、上手に話せない人より外国的なところがあるはずである。

(6) 真似上手になること

子供が言語を簡単に覚えて、大人はなかなか覚えられないのはなぜだろう。私の考えでは、子供は深く考えないでどんどん真似をするからだと思う。私が日本語を習い始めたのは21歳のときだった。それ以前の日本語の知識はほぼゼロであった。それでも現在は完璧ではないが不自由なく日本語が使えるし、講義など

はもちろん日本語で行う！上達の秘けつは何?」と聞かれたら、上記のこと以外にまねが大事だと答える。私はテレビドラマで聞いた台詞を自分で使ってみたり、雑誌で読んだ単語や漢字を覚えたりして、だんだん上達していった。その結果、読めない簡単な漢字があるのに、結構難しい漢字が読めるようになった。これにはもう一つの理由がある。私は電車で旅行することが好きで、日本中を旅した。暇があれば、鈍行列車にも乗った。鈍行列車に乗っていると頻りに駅に止まるので、そのたびに駅名を見たり聞いたりしているうちに漢字と読み方を覚えるようになった。何年か前に学科の入試委員を務めたとき、ある教授が過去の入学生を調べていた。ある学生の出身高校は「四条畷」だったが、その教授は「よんじょう…」などと言って読み方が分からなかった。私が迷いもなく「しじょうなわて」と言ったらその教授はびっくりしていた。

5. 最後 に

英語を本当に正しく使えるようになることは、だれでもやればできる。子供ですら言語を使えるようになるのだから。私は学生によく「言語を覚えるのは、山登りのようなものだよ」と言う。最初は苦しいが少しずつ楽になってきて、頂上を越えれば、後は下り坂で快適になる。山のふもとで諦めている人が多いので困る。

電子情報通信学会では、この問題について方針を決める必要があると思う。英語論文誌を国際的に認めてほしければ、正しい英語にする必要がある。予算は必要だろうが、今のままだと世界中に恥をかかすだけだ。

デービッド・K・アサノ（正員）

カナダのプリティッシュ・コロンビア大・電気卒.1994 トロント大博士課程了(Ph.D.).1994 科学技術庁フェロー(郵政省通信総合研究所勤務).1996 信州大・工・情報・講師.1997 同助教授. デジタル通信の研究に従事.IEEE シニアメンバー.